

経済百葉箱 《番外編・研修レポート》 の創刊について

2009年 7月 23日

日本経済研究センター研究本部長 石塚 慎司

日本経済研究センターでは、研究報告書やレポートの発行、セミナー、朝食会・昼食会などの開催を通じ、さまざまな情報を社会に発信・提供しています。これら活動については、相応に認知され評価されているものと自負しているところです。一方で、さほど広く知られてはいない、私どもの重要な事業活動の一つに、次代の経営幹部やエコノミストの養成を目的に、企業・団体の若手・中堅社員・職員を1年間ないし2年間センターに派遣いただく、「研修コース」があります。センター設立以来45期あまりを数える伝統がある本研修の「卒業生」は1,300名超にのぼり、産業界のほか第一線のエコノミストとして、活躍しています。

派遣いただいた研修生（当センター呼称では研究生）は4～6月の期間、経験および識見に優れた講師から主として経済分析に必要な講義（基礎研修）を集中的に受講します。マクロ・ミクロの経済学にはじまり、経済数学、計量経済学（含む実践）のほか、応用経済学（例えば労働経済）、さらには経済指標の見方など文字どおり“フルコース”のメニューを提供しています。その後は、希望に応じて経済予測や分析作業に携わることになっています。

今年度は20名がこの基礎研修を受講しましたが、講義の一部を担当した竹内淳一郎主任研究員（当センター短期予測班主査）の発案で、研修期間中に『経済百葉箱』（当センター経済予測班メンバーが執筆するレポート）の《番外編・研修レポート》の作成を課すこととしました。第一に、座学に偏った研修にアクセントをつけること、第二に、論理構成力を磨くこと、第三に、データオリエンテッドなリサーチを体験し実務研修へのスムーズな導入に繋げること、最後に、研修生同士の議論を通じ交流を深めること、を目的としています。今回、その第一陣として、「[株式市場への政府の介入について](#)」「[製造業派遣禁止論は妥当か](#)」を公表することにしました。

皆様の眼からみると、内容自体、詰め切れていないと感じられるかもしれません。ただ、上記の趣旨からすれば、時間を掛け内容を精緻化するより、荒削りでも社会の議論に一石を投じる意味で、公表することに意義があると考えた次第です。その際、極力幅広い読者層を対象に、平易かつ簡潔なかたちで、記述するよう指導した積もりです。

本レポートが皆様に日経センターの研修活動をより知っていただくきっかけになれば幸いです。内容にご意見等ありましたら、以下の「経済百葉箱・研修レポート」専用メールアドレスにお寄せ下さい。hyakuyou-kensyu@jcer.or.jp